

薬物療法学特論

《担当者名》准教授 / 鹿内 浩樹
教授 / 町田 拓自 准教授 / 水野 夏実

【概要】

血圧や体液pH、浸透圧などの生体内環境を正常な状態に維持する機能、すなわち生体の恒常性（ホメオスタシス）を理解するためには、様々な臓器の生理学的知識を統合することが必須である。薬物療法学特論では、恒常性維持に重要な循環器系、血液系、呼吸器系、腎・泌尿器系、内分泌系の病態生理・薬物療法について統合的に学修し、これらの領域における論理的思考力を高め、それに基づく応用力を身に着ける。

【学修目標】

日常遭遇する頻度の高い主な血液系疾患、腎・泌尿器疾患、循環器疾患について列挙し、その病因・病態を複合的に理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を踏まえ、実践的な薬物治療を提案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	血液系（1）	止血薬の薬理および臨床適用を説明できる。 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理および臨床適用を説明できる。 各種貧血について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -1~3	町田 拓自
2	血液系（2） 感覚器系	播種性血管内凝固症候群について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 血友病、血小板減少性紫斑病、白血球減少症、血栓塞栓症について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 眼疾患について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 耳鼻咽喉疾患について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -4, 5、E2-(6)- ,	町田 拓自
3	代謝・内分泌系（1）	視床下部・下垂体系の内分泌疾患について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)- -4, 5, -1	水野 夏実
4	代謝・内分泌系（2）	性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)- -1, -1	水野 夏実
5	腎・泌尿器系	過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理、病態、薬物治療を説明できる（膀胱炎、尿路感染症、尿路結石） 排尿障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)- -4~5, -1	水野 夏実
6	呼吸器系（1） 呼吸器系（2）	鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理および臨床適用を説明できる。 咳嗽、喀痰、血痰・喀血、胸水、チアノーゼ、呼吸	鹿内 浩樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		困難などについて説明できる。 呼吸器疾患治療薬の薬理作用機序を説明できる。 閉塞性換気障害（喘息・COPD）についての病態・治療について説明できる。 拘束性換気障害（特発性肺線維症を含む）についての病態・治療について説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -3、5、6 E2-(4)- -1～4、E2-(4)- -1	
7	循環器系（1） 循環器系（2）	不整脈、虚血性心疾患、高血圧、心不全の病態を説明できる。 心原性ショック、浮腫、心悸亢進・動悸などについて説明できる。 循環器疾患治療薬の薬理作用機序を説明できる。 不整脈、虚血性心疾患、高血圧、心不全の基本的な治療について説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -2、3、6、8 E2-(3)- -1～4、E2-(3)- -1	鹿内 浩樹
8	循環器系（3）	閉塞性動脈硬化症（ASO）について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 肺高血圧症について、治療薬の薬理・病態・薬物治療を説明できる。 弁膜症及び先天性心疾患について説明できる。 関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標 E1-(2)- -1、E1-(2)- -2、3、6、8 E2-(3)- -5、E2-(3)- -1	鹿内 浩樹

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験（筆記）100%により評価する。

【教科書】

「コンパス薬物治療学 改定第2版」原明義、小山進（南江堂）
 「パートナー薬理学 改定第4版」栗原順一、田中芳夫、坂本謙司（南江堂）

【参考書】

「病気がみえる vol.2 循環器 第5版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.4 呼吸器 第4版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.5 血液 第3版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器 第4版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第4版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.12 眼科 第1版」MEDIC MEDIA
 「病気がみえる vol.13 耳鼻咽喉科 第1版」MEDIC MEDIA
 「薬がみえる vol.1 第2版」MEDIC MEDIA
 「薬がみえる vol.2 第2版」MEDIC MEDIA
 「薬がみえる vol.3 第2版」MEDIC MEDIA
 「薬がみえる vol.4 第1版」MEDIC MEDIA

【備考】

必要に応じて、補習講義を実施することがある。
 定期試験範囲には、当該補習講義の内容を含めることもあるので、出席すること。

【学修の準備】

本講義は、1～3年に開講された科目「機能形態学I」「機能形態学II」「薬理学総論」「臨床医学概論」「薬物療法学～」を踏まえて展開される。これまで学習してきた個々の臓器別の病態生理学及び薬物療法学の知識を統合し、臨床に即した薬物治療の実践につなげていくために、疑問点を含めて講義内容のしっかりした理解に努めること。

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと(50分)。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと(50分)。

復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに(50分)、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと(20分)。

【関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標】

E2-(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

循環器系疾患の薬、病態、治療

血液・造血器系疾患の薬、病態、治療

泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、治療

E2-(6) 感覚器・皮膚の疾患と薬

眼疾患の薬、病態、治療

耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療

【実務経験】

鹿内 浩樹(薬剤師)、町田 拓自(薬剤師)、水野 夏実(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験に基づいて、臨床に即した薬物療法学の講義を行う。